

平成30年度第2回新潟市北区郷土博物館協議会 会議議事録

日 時：平成31年3月26日（火） 午後3時 ～ 5時

場 所：新潟市北区郷土博物館 集会室

出席委員：8名

阿部紀夫、伊藤裕美子、大月優子、小島勝治、里村洋子、
島 吾郎、杉本耕一、寺山知子 (五十音順、敬称略)

欠席委員：小黒 忠、小林久哉 (五十音順、敬称略)

傍 聴 者：なし

事 務 局：(北区地域総務課) 佐々木勇課長 (副区長)
(北区郷土博物館) 木村隆行館長、神田直子主幹 (学芸員)、塩原賢信主査 (庶務)、曾部珠世非常勤嘱託職員 (歴史)

資 料：当日配布 (別添)

会議のあらまし

- ・平成30年度第2回目の協議会でした。
- ・議事は、杉本耕一会長の進行により、別添の会議次第に沿って行われました。
- ・議事の項目ごとに、別添の配布資料に基づいて、博物館が説明を行い、それに対して委員から質疑や意見などが出されました。

杉本委員長 時候のあいさつ

佐々木課長 (副区長) 時候のごあいさつ

事務局 配布資料に基づいて平成30年度後期の事業報告 (添付資料参照)

小島委員 「博物館まつり」の参加者が年々約100人ずつ大きく減少しているが、この現状について、博物館はどのように捉えているのか。この現象に、これ

から取り組むべき課題が示唆されていると思う。

事務局 今年度のまつりについては、小黒五稜先生による大筆パフォーマンスが無かったこと、芸能団体の発表が11月25日の「北区伝統芸能文化の祭典」(開館50周年事業)の実施で分散したこと、天気良すぎたことなどの要因が考えられるが、内容もマンネリ化して飽きられてきたこともあるかと分析している。

大月委員 天気が良く、大きなイベントが他の場所であるとそちらに家族で出かける。ボランティアで参加したが、子どもが少なくて残念に思った。

小島委員 児童数の減少もあるが、「博物館まつり」への参加者そのものが激減している。苦勞が報われない。参加者を増やす意気込みでやってほしい。北区全域の学校から保護者が子どもを連れて集まるような働きかけになっているのか。宣伝や広報はどうなっているのか？

事務局 北区内は、「北区役所だより」で周知されている。全市的には「市報にいがた」があるが、紙面の都合もあり十分に周知されているとは言い難い。また、「市報にいがた・北区役所だより」は、各戸に新聞折り込みで配布されるが、新聞を購読している世帯が少なくなっている。郵送サービスもあるが申し込みをしない世帯も多い。

伊藤委員 市報や区役所だよりで紙面等が限られているのであれば、各区のものが見られるホームページなどでも充実すべきである。時折、ホームページをみると、情報の更新がされていなかったりしている。バックナンバーも見られるようにするなど検討していただきたい。

事務局 インターネットの活用もしているが、PRは完璧とは言えない。博物館のページだけでなく北区役所のホームページに掲載することや個人がSNSに掲載してくれることも期待している。

寺山委員 小学校への広報はどのようになっているのか？全世帯に広報されるのか？

事務局 「博物館まつり」のチラシが、児童一人一人に届くように学校に配布している。また、学校にはポスター掲示も依頼している。

小島委員 児童一人一人にチラシが渡ることはいいいことだと思う。期待している。子どもがそれを見て行きたくなるのが肝要である。

- 寺山委員** イベントでは、「食」（食べ物）も目玉となる。昔の食の体験などもいいのではないか。こういった楽しみがあることや、めったに出来ない体験などが人寄せになる。
- 大月委員** ちょっとしたプレゼントがあると、もらいに行きたくなる。無料の配布物などで、博物館で半日過ごそうという気持ちにさせることができればいい。
- 事務局** いろいろとアイデアをいただきありがたい。ただ、博物館の職員数が少ないので、現在のイベントさえもカバーできず、ボランティアさんから助けてもらっている。ボランティアに新しい人からも入ってもらいたい。
- 阿部委員** 美術品を調査し、公開する企画が始められているが、所蔵美術作品の整備をこれからも一層進め、公開して行ってほしい。
- 事務局** 美術作品は、284点所蔵している。美術学芸員として赴任して美術所蔵作品の点検・調査、台帳整理などを行っているが、企画展事業に追われて、収蔵品にじっくりと取り組むことがなかなか出来ていない。また、この博物館は、当初自然科学、次いで書道、そして歴史民俗と中心分野の方針転換がはかられてきているが、施設・設備自体が、美術品の保存、管理、展示に適しているとは言い難い。展示ための固定壁面がほとんどない上に、作品の移動においても、収蔵庫の天井の低さや狭い通路など施設上の問題で、わずかな距離の作品移動でも専門業者に依頼しなければならないこともある。こうした物理的な現状も、美術の展示活動が簡単ではないことの要因ともなっている。
- 阿部委員** 博物館には、寄贈を受けたり博物館自体が購入したりしたものなど貴重な美術作品もある。今回の「美術のなかの自然展」など、所属作品の公開を是非継続的に進めて行ってほしい。
- 里村委員** こちらの博物館は美術も展示するのだと新鮮な感じを受けた。北区にある絵の展示は大事なのでこれからも続けて行ってほしい。「昭和の暮らし展」はホール入り口が展覧会場の入り口になっていて、そこから中へと誘導され、見やすい。内容も充実しているので、次年度も期待している。北区は木崎小作争議が欠かせない。このことを知っている人が少なくなっている。ぜひとも博物館でとりあげてほしいと思う。専門家を呼んで講座・講演会を行うなどの事業を検討してほしい。
- 島委員** 議事資料が詳しく、また見やすく作られていてとても良い。博物館玄関前の看板も企画展周知に良い。大変分かりやすくなっている。

弦巻松蔭の「学書と模索の時代展」には感動した。戦後、この葛塚のまちで書道塾を開き、地域の青年たちに精神的な励ましを与えるなど影響が大きかったと聞いている。松蔭先生の大きな軌跡がよく分かった。

「昭和の暮らし展」も素晴らしい。子どもにもいいことだ。コットンボール（綿花）は珍しく、それらが紹介されていることは素晴らしい。

横井の丘ふるさ資料館の改築が難しいようだが、「建物」の存続はあきらめるとしても、砂丘列の眺望がよく、地形的に名残をしめす貴重な場所である。展望テラスなど設置し、場所として残してほしい。

伊藤委員 ボランティアガイドを行っているが、知らないことも多く、良い経験になっている。「昭和の暮らし展」では『着る』というテーマで実際にガイドしてみたが、外来の文化がだんだん入ってきて生活が変化した経緯が実感できた。「博物館まつり」の事業についてだが、資料に医療福祉大学生の参加とあるがどのような関わりがあったのか。

事務局 消しゴムでのハンコ作りにスタッフとして入ってもらった。例年は子どもが多く見守りが必要な状況であり、多い人数で入ってもらった。

伊藤委員 11月25日に北区文化会館で行われた「北区伝統芸能文化の祭典」の600人の観客数はどのようなものか。大ホールに入った人、「神楽のお頭展示」とスタンプラリーに参加した人、横笛体験、講演会などもっと人が多かったように思う。素晴らしいイベントだった。「神楽のお頭展示」とスタンプラリーだけでも、そこでいろいろな神楽のお頭を見ることができ、とても中身のいい事業でよかった。

事務局 「神楽のお頭展示」とスタンプラリーだけに来た人もいたと思うがカウントしていない。大ホールに入るための入場整理券を発行した数が600人であったので、参加者600人としている。最後には、入場整理券を持っていない人も、大ホールに入れていたそうなので、実際はもっと多かったかもしれない。

伊藤委員 団体見学者についてだが、資料には、一般の団体見学が1件とあるがもっとあったのではないか。

事務局 この1件は見学の分類で記載している。豊栄図書館の歴史講座で学び、その後、北区の考古について詳しく学びたいと話があって、内容を北区の考古・遺跡に限定した講座を開催したが、その時の団体である。ふるさと学習の目的が明確な事業であり、一般的な団体の博物館見学とは別のものである。

- 事務局 2019（平成 31 年）度の事業計画案の説明（別紙資料）
- 小島委員 所蔵美術品の公開には大賛成である。年に 2 回位、博物館で所蔵している美術作品を企画展などで見せてほしい。楽しみにしている。
木崎小作争議は、北区での特徴的な出来事である。歴史上、北区が異彩を放っている。木崎小作争議 100 周年と加えて阿賀野川治水 300 年記念（阿賀野川松ヶ崎決壊から 300 年）の企画も是非実施してほしい。
- 阿部委員 今年の 11 月 23 日で木崎争議 97 周年である。木崎争議 100 周年に近い。記念碑保存会でも検討しているが、博物館の方でも検討してほしい。曾部学芸員には精力的に写真など整理してもらっていて心強い。今年、農民運動をまとめた南部郷記念誌が発行されたが、ここに私も木崎小作争議を寄稿した。小作争議は全国的にも新しく著作が出ており、まだ生きている事案である。博物館と協力してやっていきたい。
- 伊藤委員 北区の子ども科学展のガイドを行った。常設展示場に誘導することができて良かった。発明工夫として保護者もメモしながら常設展示を見ていた。事業予定の部門の改定はどんなものか。
市民ガイドの養成講座は大事であり、新しい人も大事だが、経験者も初心に帰って学ぶ機会も設けてほしい。
美術品の収納についても苦勞を聞いた。可能であれば美術品収納の改善も図ってもらいたい。
横井の丘の場所について、展望図などを設置して場所としての残し方について検討してもらいたい。
- 事務局 木崎小作争議の 100 周年については、興味が湧くような企画展や事業の着眼点にもご教示をお願いしたい。「こども科学展」における部門の改定は、実態に合わせて観察・実験の部とすることで検討中である。美術品の保管は難しい。収納スペースの問題や、温湿度管理も大事である。横井の丘ふるさと資料館が大事な場所であることは認識しているので、すぐに何かできる訳ではないが引き継いで行きたい。
- 里村委員 「アートと道具のはざま展」では、芸術作品と民具の展示が一緒に見られて楽しみでわくわくしている。今年度の「美術のなかの自然展」は視点がとてもよかった。「昭和のくらし展」も次のテーマをととても楽しみにしている。
- 島委員 ビュー福島潟、図書館、博物館、環境と人間のふれあい館と横の連携を深めていただきたい。